がんリハビリテーション

徳島がんリハビリテーションネットワーク研究会

ホスピス緩和ケア病棟での14年間の経験から、末期がん患者の皆さんが最期まで体を動かし自分で出来ることをしたいという希望が強いことが分かりました。がんリハビリテーションは全ての病期のがん患者さんに必要であり、徳島でのがんリハビリテーション技術を進歩させたいという思いから、私達は昨年夏から、『徳島がんリハビリテーションネットワーク研修会』を開催してきました。そのまとめを報告します。

この10年間、C型肝炎ウイルスや関節リウマチに対する画期的薬剤の登場に代表されるように、医療の進歩により多くの病気が治ったり良好にコントロールされるようになりました。今後は認知症とサルコペニア（筋萎縮）に取り組む必要があります。そこで当院ではリハビリテーション・ペインクリニック・針灸治療などで対応を始めました。

田村克也副院長挨拶

副院長（総合内科・循環器科）
田村　克也

やっと涼しくなってきました。日頃、皆様には大変お世話になっております。私は、平成28年4月より近藤内科病院で勤務をしております。近藤内科病院で勤務をするまで、健康保険鳴門病院循環器科、徳島県立中央病院循環器内科、徳島県立三好病院で循環器を専門としておりました。基幹病院で急性期の治療を行っていたわけですが、一人の患者様の治療を完結するためには、基幹病院だけでは不可能です。急性期を乗り切った患者様を地域全体で切れ目なく治療することが必要です。近藤内科病院では、急性期を乗り切った慢性期の治療、健康管理を地域の中で、患者様に寄り添って行っていきたいと考えております。そのため医師、看護師、薬剤師、理学療法士など多職種のスタッフが協力し患者支援を行っております。

また、いかなる病気も本人、ご家族にとって大問題ですが、その中でも癌は特に深刻です。当院の重要なもう一つの役割に緩和ケアがあります。がん患者様、ご家族の皆様の肉体的、精神的苦痛を和らげ日常に近い生活をしていただけるように支援をしております。その中の一つとして、がん患者様に対するリハビリテーションをはじめました。体を動かすこと、マッサージを受けることなどリハビリテーションにより、苦痛が和らぐことが分かりました。今回のわかば通信はこのがんリハビリテーションについてのお話をテーマにしております。

一般診療、緩和ケアともに安心して治療を受けていただけるように、また医療を通して地域に貢献できるように頑張りたいと考えております。今後ともよろしくお願いいたします。

徳島がんリハビリテーションネットワーク研究会

第1回：平成27年7月18日（土）第2回：平成28年2月11日（土）

がん患者の支援強化に取り組む医療機関でつくる「徳島がんリハビリテーションネットワーク研究会」の会合として、徳島市の市医師会館で開催し、理学療法士や看護師ら約150名が、リハビリ医療の在り方について理解を深めました。

第1回 講演

今、がんリハビリテーションに求められているもの
ー緩和期への関わり方を中心にー

埼玉医科大学・保健医療学部
理学療法学科・教授・学科長　高倉保幸先生

（講演要旨）

日本では、年間約 100 万人の方が亡くなりますが、がんで亡くなる方は約 35 万人と約 1/3 を占め、がんは 1981 年以来日本人の死亡原因の 1 位となっています。医療の進歩に伴い、がんによる死亡率は減少傾向にありますが、高齢者に多く発生するがん患者数は日本の平均寿命、高齢化率の増大とともにまだまだ増加する一方です。このような時代背景の中、がんと共存しながら少しでも自分らしい生活を送ることができるようにする医療が求められ、がんリハビリテーションに対する期待が高まっています。質の高いがんリハビリテーションを行うためには、適切な心理的働きかけと身体的働きかけが車輪の両輪のようにともに不可欠です。適切な心理的な働きかけがなければ方向性の定まらない独りよがりの医療になってしまいますし、専門職としてのスキルに裏付けられた適切な身体的働きかけがなければ患者さんの辛さを助けてあげることはできません。心理的働きかけでは、基本的なコミュニケーション能力がまず必要となりますが、さらに専門的な知識があれば患者さんをより理解し、適切に対応できるようになります。身体的働きかけでは、我々が他の疾患で培ってきたリハ専門職としてのスキルを活用できます。しかし、そのようなスキルを活用するためには、がん特有の問題を知っておく必要もあります。がん患者は診断や治療で不快な感情を多く経験します。効果的なリハビリには患者との積極的なコミュニケーションが欠かせません。寄り添う気持ちを大切にして欲しいと思います。

各施設からの実践報告

「緩和ケアとリハビリテーション-徳島大学病院での現状をふまえて-」
徳島大学病院　リハビリテーション部　理学療法士　近藤　心

「当院におけるがんのリハビリテーションの取り組み・現状」
徳島赤十字病院　リハビリテーション課　作業療法士　藤本　真衣

「緩和ケアにおけるがんリハビリテーションの展開」
近藤内科病院　理学療法士　前川　聡兵

「緩和ケアにおける鍼灸師の役割」
近藤内科病院　鍼灸師　島田　夏彦

第2回 講演

がんリハビリテーション
ー看護師の立場から

がん研究会有明病院・がん看護専門看護師　花出正美先生

（講演要旨）

がんリハビリテーションとは、がん患者の生活機能とクオリティ・オブ・ライフ（Quality of Life; QOL）の改善を目的とする医療ケアであり、がんとその治療による制限を受けた中で、患者に最大限の身体的、社会的、心理的、職業的活動をさせることと定義されます。がんリハビリテーション看護とは、がん治療によってもたらされた身体の器質的・機能的変化に対して、身体・心理・社会的に働きかけ、自らQOL を高めるように一貫した援助を行うことです。患者・家族が最良の QOL を実現できるように支援することは、看護の実践的理念であり、がんリハビリテーション看護という概念を使っていなくても、従来、看護師が実践してきたケアの本質を示していると言えます。診断期、治療期、慢性期、終末期といったがんの治療・療養過程において、看護師は、①患者のニーズに即した具体的な計画の実施、②動機づけの維持・強化、③セルフケア能力の維持・強化、④家族の適切なサポートの促進、⑤リソース利用の促進、⑥患者・家族の不安への的確な対応などを通して、がんや治療に伴う機能的・形態的変化や生活の変化を抱えるがん患者・家族が最良の QOL を実現できるように支援する必要があると考えます。

各施設からの実践報告

「在宅療養を希望された進行子宮頸がん（Ⅳｂ）の一症例」あおぞら内科訪問看護ステーション　秦野 正範

「訪問看護における緩和ケアの実際」　徳島市医師会訪問看護ステーション　大川由紀

「当院言語療法室における現状と課題」　徳島市民病院　リハビリテーション科　言語聴覚士　冨永由衣

「当院の緩和食」　徳島県立中央病院　医療技術局　栄養管理科　管理栄養士　竹内裕貴

「緩和ケア病棟での『彩り食』」　近藤内科病院　栄養科　門田梨早

～ Information ～

●ペインクリニックを始めます

第2、4土曜日　担当医　徳島大学麻酔科　専門医　川人伸次助教授、蘇我明宏講師

●第3回徳島がんリハビリテーションネットワーク研究会

日時　平成28年10月22日（土）19時～21時

場所　徳島市医師会　4階大会議場

講演　①「メンタルケアとコミュニケーション」　国立がん研究センター　中央病院支持療法開発センター　内富　庸介先生

②「実践報告」　鴨島病院、徳島市医師会訪問看護ステーション、近藤内科病院から報告

主催　NPO法人ホスピス徳島がん基金・近藤内科病院（088-663-0070）

共催　徳島大学病院、徳島赤十字病院、徳島市民病院、徳島県立中央病院

新しいスタッフ紹介

日野医師挨拶

日野明子

はじめまして。昨年末から当院で勤務させて頂いております。私は徳島大学を卒業後、内科研修を経て病理検査部門に身を置き、病理診断や解剖業務を行ってきました。このため臨床経験が乏しく、自分の非力を痛感する毎日です。病院ではまだまだ慣れていないことも多く、ご迷惑をおかけしておりますが、全職員の皆様のお力をお借りして誠心誠意診療に当たりたいと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

看護部

田中希実　秋月宏美　岸野佑美　濵本由実子

リハビリテーション部

熊谷瞳　吉川睦美

栄養科

渡邊桂子　篠原彩華

事務部

濵友里恵　吉田祐美　並川紗織　冨士原倫代　沢野優子

●外来担当医師時間割（平成28年7月1日現在）

		月	火	水	木	金	土
午前	1診	院長（総合内科）	院長（総合内科）	院長（総合内科）	院長（総合内科）	院長（総合内科）	院長（総合内科）
	2診	齋藤圭治（消化器科）	吾妻雅彦（呼吸器科）	田村克也（循環器・高血圧）	田村克也（循環器・高血圧）	田村克也（循環器・高血圧）	
	3診	田村克也（循環器・高血圧）	粟飯原賢一（代謝内分泌科）				吉本勝彦（内分泌糖尿病）
	5診				島川建明（整形外科）第4週	荒瀬友子（緩和ケア）	ペインクリニック
午後	1診	院長（総合内科）	院長（総合内科）	田村克也（総合内科）	岸宏一（循環器科）	院長（総合内科）	院長（総合内科）
	2診	田村克也（循環器・高血圧）	齋藤圭治（胃腸科）			田村克也（循環器・高血圧）	
	3診		田村克也（循環器・高血圧）		倉橋清衛（内分泌糖尿病）		吉本勝彦（内分泌糖尿病）
	5診	緩和ケア	荒瀬友子（緩和ケア）			緩和ケア	緩和ケア

皆様からのご意見をお待ちしております

わかば通信に関するご意見・ご感想をお待ちしております。
本広報誌をより良くするために皆様からの率直なご意見をお寄せ下さい。　［近藤内科病院　広報委員会］

近藤内科病院広報誌　わかば通信　第33版　平成28年9月吉日発行　発行元：近藤内科病院　広報委員会